

# 「美のおもちゃ箱展」を終えて

河野保雄

(音楽評論家・美術品コレクター)

「百点美術館」を閉館して丸四年、大方の作品を開放してはみたものの、絵画好きの心まで閉ざすわけにはいかない。いつの間にか、また多くの作品に囲まれる日々になってしまった。味わいは多種多様だが、いずれもどこか懐かしみのある小品ばかり。それはまるで年を経た私の心があるゆるものから開放されたのびやかになった証のようでもある。そんな遊び心がぎゅっと詰まった本、それが「美のおもちゃ箱」だ。嬉しいことに郡山市立美術館がその「本」を展覧会にしてくださいとう。

初日は三分咲きの桜の上に雪が降り積もり、美術館の辺りには春の芽吹きが配すらない。しかし中に入ると明るく暖かく、いきなり「チェロを弾く男」が目に見え込んできた。展示

が絶妙で作品が生き生きしている。「へんなぞう」の初山滋は四歳の時に、清楚でロマンチックな竹久夢二是小学五年生の時に、長谷川利行を中心に絵画を幅広く教えて下さった吉井忠とは十五、六才の時に出会い、それはまるで私の絵画鑑賞の成長記録を見る思いだった。力を入れて蒐めたガラス絵も、それぞれが小さい画面いつぱいに輝いている。会場には中原淳一と同列に並び近代洋画の巨匠たち。私はこの近代という文化が激変した明治以後の知識人たちの懊悩、とりわけ画家たちのその軌跡に未だに取り付かれています。戦いに敗れる者、一見成功したようであるが彷徨を続ける者、病に倒れる者、一心不乱のその先に力強く緊張感があり、それゆえに危うげで、はかなげで、

だがどこか透徹した画面が表れる。強い心で追求し表現し伝えたい、そんなテーマのあった時代の幸福であったのか、昨今の世の中を見るにつけ、ふとそんなことが頭をよぎる。今回のコレクションには、そんな彼らがふと力を抜いて思わず筆を走らせた味のあ作品が並ぶ。永遠のテーマを描ききった野田英夫の『少女』に、まさに純心無垢な「愛」を感じる。こんな絵に出会った時は、私の心の隅に眠るなつかしみのかけらをひとつ見つけたような喜びを感じるのだ。

私の極上の一ヶ月が終わる五月中旬、美術館は若々しく匂うような新緑に包まれていた。

## 絵からきこえてくるもの 美のおもちゃ箱展 河野保雄のコレクション

2010年4月17日(土)~5月16日(日)

会場 / 郡山市立美術館企画展示室

主催 / 郡山市立美術館

### 河野氏によるギャラリー・トーク

講師 / 河野保雄氏

日時 / 平成22年5月3日(月・祝) 午後2時から

場所 / 郡山市立美術館企画展示室



▲河野氏によるギャラリー・トーク

▲野田英夫〈少女〉1936(昭和11)年 油彩・キャンバス(個人蔵)

## スウィングン・ロンドン 50's-60's

ービートルズたちが輝いていた時代ー

2010年5月22日(土)~7月4日(日)



1950年代から60年代にかけてイギリスで流行したファッションや音楽などのライフスタイルを紹介する展覧会を開催しました。ロビーには、「ミニ」や「ロータス・エリート」などの自動車やスクーターが並び、会場にはトランジスタラジオやテレビなどの家電製品、家具やテキスタイルデザイン、当時流行のファッションなどが展示されました。

ちようど、ロック・

ミニシックが生まれた熱い時代！イギリスからはビートルズやローリングストーンズ、ザ・フーなどのバンドが次々にデビューし、世界へと羽ばたいていきました。こうした現象は、「ブリテッシュインヴェイジョン」と呼ばれ、全

